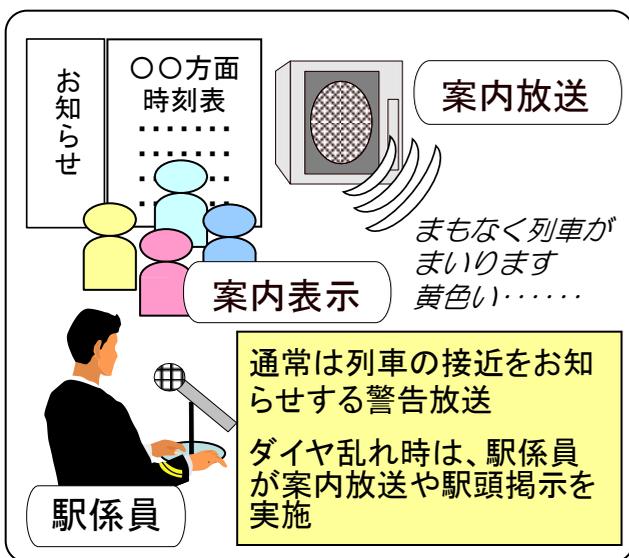
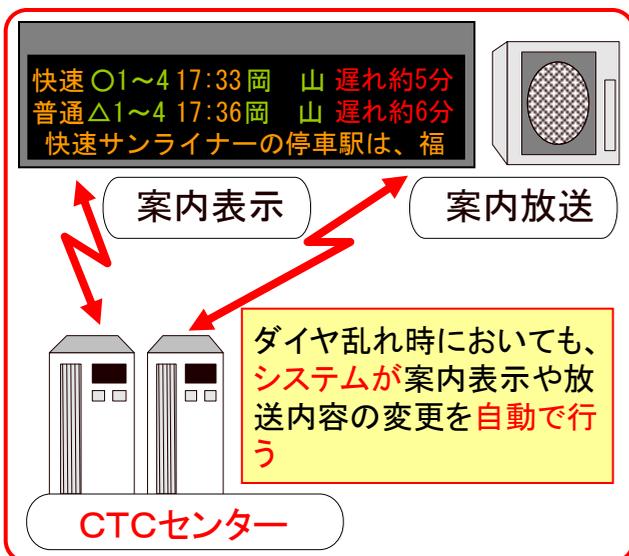


# 現行と新たな運行管理システムとの違い①

## お客様案内の充実



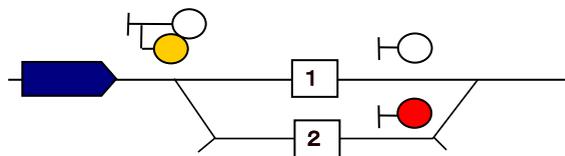
### 導入後



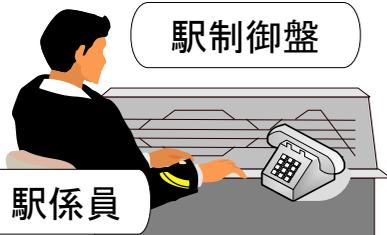
対象駅	実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・山陽本線 瀬戸駅～糸崎駅</li> <li>・赤穂線 西大寺駅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動放送</li> <li>・発車標</li> </ul>	<p>のりば、列車種別、乗車位置、発車時刻、行先、停車駅、遅れなどを適時放送及び表示する</p>  <p>(発車標イメージ)</p>
岡山駅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特急乗車口案内</li> </ul> <p>特急列車の乗車口をそれぞれのドア位置の上方に表示</p>	 <p>(複数の特急列車用)</p>  <p>(特定の特急列車用)</p>

# 現行と新たな運行管理システムとの違い②

## ダイヤ乱れの早期回復



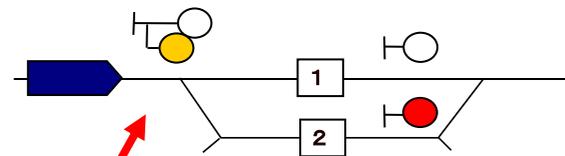
- ・駅係員は着順表により手動で進路構成
- ・電話や無線による運行情報収集



【着順表】

2074D	
9:2	1054
	9:19:30着
	9:25:45発
	②

導入後



- ・システムの自動進路制御による正確性の向上
- ・運行情報の一元管理によるダイヤ乱れの早期回復



## 保守作業の安全性向上



工事監督者と駅係員が電話等で打合せを行い工事を実施

工事監督者



駅制御盤

導入後



工事監督者が携帯端末で運行状況を確認の上、工事を実施

工事監督者

安全かつ効率的な工事施工が可能

CTCセンター